

林心煩遊

2020
11月

報恩講

十一月八日(日)

午前十一時三十分

この度の法要も二十五名定員、申し込み制といたします。
法話

衆僧総報恩読経

報恩講は年内最後の法要です

宗祖親鸞聖人のご命日をご縁としてほとけと成られた故人に今年一年を報告し、見護って下さった事に、また尊い仏縁を下さっている事に感謝する法要です

未だコロナウイルスの感染終息は見えませんが、ご参詣お待ち申し上げます。

ご参詣申し込み

全日午前九時から午後五時まで

03-3996-2064

それ以外の時間は

080-5464-9136まで

さてさて、報恩講の季節です。報恩講は浄土真宗ではいちばん大切な行事と言われています。十一月二十八日は親鸞聖人の御命日です。その後命日に合わせ、自ら在家（俗世間の生活、出家は出世間、家出ではないよ）の仏弟子として生涯を送り在家の私たちが往生できる道を示してくださったご縁に感謝する法会です。かつては、報恩講は三日ないし四日間長いところでは一週間昼夜を問わずお説教を聞き、また合間には参詣者同士、夜を徹して信心の話をしていたようです。これからも解るのは浄土真宗における「報恩」とはただ、有りもしないご利益をありがたがったり、的はずれなお供えをしたりではなく、親鸞上人がなにを願われていたか、お釈迦様が、そして阿弥陀さんがなにを願われていたか考え実現することです。阿弥陀佛の本願は一切衆生を救うことです。親鸞聖人はその願いに気づかされ本願に帰し在家者として往生極楽の道を歩み続けました。そしてご自身と同じく、五濁悪時の群生海を生きる私たちもこの往生の道を歩み通して欲しいというのがその願いです。それゆえ、何日も何回でもお説教を聞き、人の信心を聞き、己の信心を語り、批判し批判され自分の感じ方や在り方に気が付き阿弥陀さんの本願だけがこの私を引き受けて下さると信知し往生の道を歩む。これが御恩に報いる内実です。さて仏教の肝要は常に「自分」がどうかということです。他者がどうこうではなく自分がどうかなんです。

そこで、私はどうか？私の場合他者の生き方に対し批判するほど興味は持てません、ましていわんや批判されるのはまっぴらごめんです。ただ、残念なことに毎日親鸞聖人の書かれたお聖教やお釈迦様の教えであるお経を読まなくてははいけません。これはまさに私を徹底的に批判します。そのうえ、You Tubeで「ほぼ毎日言の葉カード」なんて無謀なことをやっていますので、ご覧になるとおわかりの通り、ほぼ毎日「言の葉」に打ちのめされています。おかげさまですっかり打たれ強くなりました。というか、生きていく上で凶々しくなりました。そう考えると皆さんには「ご恩に感謝」なんて言いながら私はちっとも感謝する気は無いようです。ただ、寺に生まれそれゆえ坊主として生きて行かざるを得ない、その生活の中で、本人の性格の悪さや好みと無関係に阿弥陀さんの本願、親鸞聖人の願いである「往生極楽の道」を歩まされているのが事実です。つまり「報恩」も、私の意志ではなく自然として勤めているようです。

幸か不幸か、皆さんも既に私と同じ船に乗せられています。ですので、こんな時期ではありますが諦めてお寺にお参りに来なさい！それが自然の理です。牽強付会！にてご無礼申す。

昔、前任職（父）と一緒にそのお寺さんの報恩講法要にかけた時の話。父は、法話のあと、帰りがけにお焼香の作法とその意味について説明しました。真宗大谷派の場合はお焼香は二回（ふたつまみ）。本願寺派は一回。その回数、なぜ二回なのかを簡単に説明したのです。

自分でも、なぜ二回なのかを自分なりに、伺った先でお伝えすることもありましたし、父に「こうこう、こういう意味かな？」なんて聞いたりもししていましたが、父は「そうだな」と微笑んで言うだけでした。二〇代後半〜四〇歳頃だったので、自信がないのと、それを隠したくて今よりもやたらとなにも理由理屈をつけ、それが間違いないと思いたくてしようがない頃だったので、覚えてたの知識をひけらかすかのように、お焼香の二回の意味付けをしていました。

で、父のその時の説明は実にシンプル。「二回は仏さまのため、一回は自分自身のため」というもの。

「え？なんか。。。え。え。ええ？そんだけ？」

というのがその時の正直な感想です。

それで、最近はというと、わたしもお焼香の説明をする際は同じようなことを言うことがようやくできるようになりました。それだけでは終えられないんですけどね、まだ。そこに少し説明をつけないと不安で、仏さまとはなにを指すか、自分とためとはどういうことか、を、言わないと不安なんです。シンプルは難しいです。

だから、少しだけ、説明させてください。「仏さまのため」というのは「南無阿弥陀仏」わたしをわたしならしめてくれて

いる一切合切、空気や水や人の思いや願いなんかも含めて、過去・現在・未来を通して、夢やそれを見せてくれる環境なんかも含めて、もうなにがなんだか分からん感謝なんて出来ようもないものへの感謝」の一回。「自分自身のため」というのは一番できない「自分自身への感謝」。無条件で、自分自身に合掌して頭を下げるということです。この二回の感謝、絶対にできないことです。それをお焼香という作法をすることで、阿弥陀さんが代わりにしてくれているということなんです。わたしは、ただそういう作法だからやっているだけで、でもその瞬間、阿弥陀さんが感謝の行をわたしにしてくれているのです。

つまり、なんも考えなくても、無意味に二回のお焼香をすると、無意識にわたしは、過去・現在・未来の一切の命、一切の事象、一切の關係に感謝をし、その一切合切がはたらいて作り上げた「わたし」というとんでもない奇跡のたまものに感謝し頭を下げているということになるのです。

あ、せっかくここまで読んでいただいたのになんですが、無意味で、無意識ですから、先に書き並べた屁理屈はとつと忘れてください。

でも、無条件で自分に感謝をする、ということだけは目標としてどこかに置いておいてください。わたしの人生の目標は無条件で自分を受け入れられるようになる、それを大事にしてほしいのです。阿弥陀様はすでに受け入れてくれます。わたしに感謝して合掌して礼拝してくれています。報恩講は、そんな阿弥陀様の感謝の行に合う、知らないうちに自身に感謝させられるといういちばん大事な法要なのです。

副住職

今年も残すところ後3か月！月日の過ぎる事のなんと早いことか。特に2月以降の日々の変化は怒涛の中に有るようで、完全に浮足立ってしまった。大きく変わらざるを得なかったこと、変わらざるにいられた事、これから検証しなくてはと珍しい事を考えている。私にとつてはね。いつも書く通り行き当たりばったり、その日暮らしが身上、何があってもいちいち気にしていたら零細寺院の住職なんて速攻ノイローゼですから。でも今回はちよつと面白かったので。

まあ、まだまだ予断許さないどころかこれからなんだろうね。カネの亡者共がやれオリンピックだ、インバウンドだと大騒ぎ始めてるからね。もう安倍、昔には馬鹿負けだね。検証したって何が変わるわけではないが面白いことは少し記録しておこうと思う今日この頃です。

住職からのお願い

今東京では火葬場が不足しています。皆さんご経験のとおり通夜葬儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまいます。また土曜、日曜に行われる一日葬が増え、その為ご法事の時間のお約束を頂いていても変更をお願いすることが有ります。葬儀をお勤めすることはそのお家の方にとって一生の一大事です。そこは相身互い、どうか寛恕下さいますようお願い致します

定例行事 いずれもご自由にご参加下さい

聞法会

毎月2日夜7時から、「御文」のお話、座談会をやっています（1月、8月はお休み）2時間ほど

グリーンケアの集い「微妙音」

八月お休み

9月以降は毎月5日午後2時より2時間ほど

白色白光の会

（婦人会）毎月第2木曜午後1時

お経（正信偈）の練習と法話と茶話会

仏像なぞり書き、塗り絵「**仏像描くぞう**」

毎月、第2月曜午後3時と月の最終日曜日午後3時から1時間
参加費三百円（初回のみ別途テキスト代千円）

照久山 順正寺 東京都練馬区石神井町三十七・四

お問い合わせ。午前9時から午後5時までは

03-3996-2064

それ以外の時間緊急の場合

080-5464-9136